

産前・産後の子どもと家庭の課題

NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事 松田妙子

地域で起こっている状況から、喫緊の課題として以下を提案いたします。

「子どもは地域で育つ」視点でのメニューの充実

始めの一步を力強く支える

産前から地域の中で支えられ、安心できる環境で子どもが育まれることが大事

→妊娠期、乳児期からのサポート（母体の安全だけでなく、生活面、精神面の安心感は地域とのつながりで支えられる）を生活モデルで実現する

→産前産後のアウトリーチ支援（訪問サポート）を地域子育て支援事業メニューに加え、基礎自治体が責任をもって実施、地域人材を活用することにより事業量を確保できるようにする。（予防型の事業だからこそできる仕組みづくり）。

赤ちゃんのことを赤ちゃんから学ぶ

自分の子育てをする前に赤ちゃんのお世話をした経験のある人が 4 人に 1 人となっている（2013 年横浜市）

→ティーンエイジャーのときに赤ちゃんとのふれあい体験授業をうける

（子育てする人生の人との出会い、自分より後に生まれた人への態度と責任を学ぶ）

→子育て中に地域で貢献する（地域の子どもたちを育てる視点のある大人になる）

→新生児への関わり方を具体的に学ぶ機会をつくり出す

医療でも母子保健でも伝えられていない「子どものいる暮らし」での関わり

（新生児のだっこ、母乳育児支援、乳児のメディア使用の抑制等）

地域の中に頼れる場をもつことの必要性

居場所がはじめからあるのではなく、安心して身近につながるができる「場」があってこそ「居場所」の獲得

→地域子育て支援拠点におけるとも育て、利用者支援基本型の専門員によるサポートや伴走によるマルチリトメント予防のさらなる推進

→プロテクト要因がリスク要因を上回るとレジリエンスが高まる（2019 山縣）